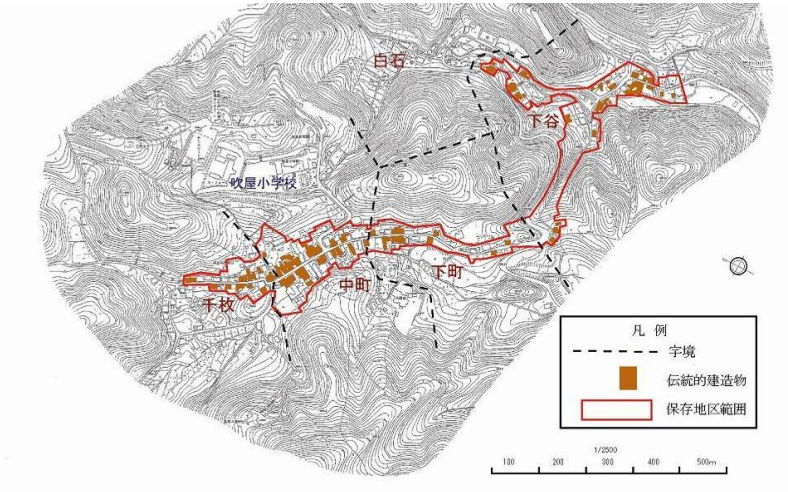
高梁市吹屋（岡山県）

令和4年5月1日
高梁市作成

（1）保存地区の概要

地　区　名	高梁市吹屋
種　　別	鉱山町
面　　積	約6．4ヘクタール
選定年月日	昭和52年5月18日
特　　徴	高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区は、岡山県西部吉備高原上の山間地に位置する。吹屋は近世以降、銅山とベンガラで繁栄した鉱山町で、起伏の多い丘陵上の往来に沿って、町家主屋や土蔵等が建ち並んでいる。屋根は赤褐色の石州瓦で葺かれ、赤い土壁や白漆喰壁の平入・妻入の町家が混在し、地方色豊かな町並み景観を呈している。

伝統的建造物群保存地区　区域図



（2）保存地区のあゆみ

昭和49年度(1974)	「岡山県ふるさと村」の指定を受ける
昭和52年度(1977)	「伝統的建造物群保存地区保存条例」制定 『重要伝統的建造物群保存地区』選定(5月) 修理修景事業開始
昭和53年度(1978)	吹屋町並保存会を結成
昭和62年度(1987)	防災施設完成
平成２年度（1990）	「おかやま景観賞」受賞
平成18年度(2006)	「旧片山家住宅」が国の重要文化財に指定
平成24年度(2012)	「都市景観大賞」受賞
令和２年度(2021)	日本遺産認定

高梁市吹屋（岡山県）

令和4年5月1日
高梁市作成

（3）保存地区の保存と整備

●主な事業

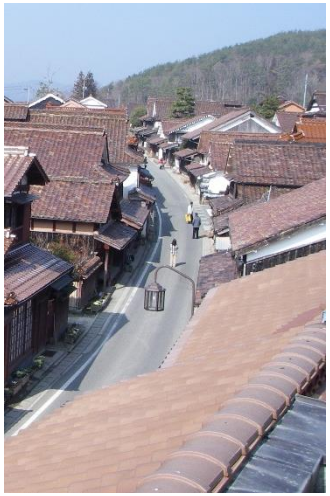
・修理・修景事業　151件

修理前

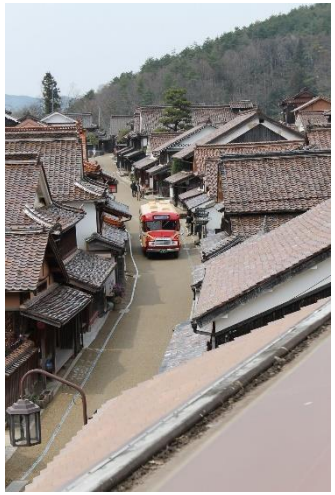
修理後

・道路の美装化

修理前



修理後



・防災事業（消火栓設置など）

・案内説明看板の設置

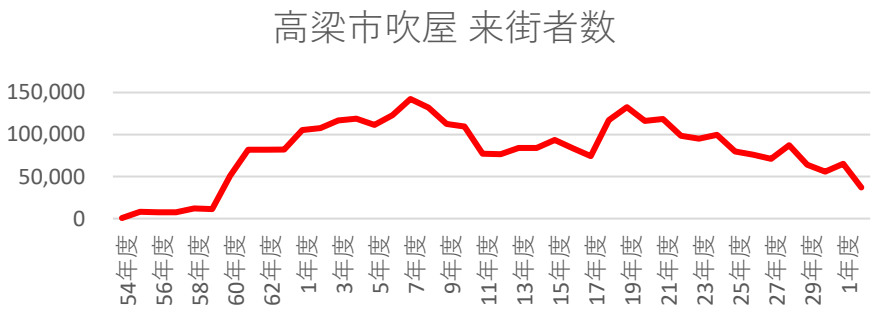
高梁市吹屋（岡山県）

令和4年5月1日
高梁市作成

（4）保存地区の活用とまちづくり

その1　伝統的建造物の活用とまちづくり

重要伝統的建造物群保存地区の選定により、町並みへの来街者数は上昇し、現在では10万人前後で推移しています。新型コロナウイルス感染症の影響により、来訪者数は減少しています。



●「吹屋ベンガラ灯り」

町並みで多くの観光客に囲まれ、吹屋小唄踊りを披露します。

●「ヒルクライムチャレンジシリーズ　高梁吹屋ふるさと村大会」

町並みがゴール地点となり、地域を上げておもてなしします。

●「ベンガラート展」

家屋を活用した、ベンガラをテーマにしたアート展です。

その2　店舗の増加、空き家の活用

保存修理工事が終わった家屋の内装を改修し、店舗として活用を図ったり、空き家を古民家再生事業により、滞在型宿泊施設として整備しました。

改修後飲食店をオープン

滞在型宿泊施設

高梁市吹屋（岡山県）

令和4年5月1日
高梁市作成

その3　歴史的風致維持向上計画、日本遺産

●R2年度：歴史的風致維持向上計画（第2期）認定

吹屋地区を一つの重点区域として設定し、風致の維持向上に努めています。伝建地区外に所在する岡山県指定重要文化財「旧吹屋小学校校舎」の保存修理がR4，3月に竣工。R4．4．21から一般公開開始。

●R2.6月：日本遺産　認定

伝建地区を核とした　「「ジャパンレッド」発祥の地−弁柄と銅の町・備中吹屋−」のストーリーが認定され、観光客増に向けた様々な取り組みを実施している。

（5）住民等の取組

●観光ガイド

地元住民で構成する「吹屋観光ガイド会」は、選定後、すぐに設立され、吹屋の歴史について研究し、伝統的建造物群保存地区内を中心に案内し、来訪者の方に喜んでいただいています。

●移住者の力

店主の高齢化により閉店予定のお店が移住者に引き継がれたり、新たな開業が行われ、地域の活性化に繋がっています。

●町並保存会役員の声

−重伝建選定40年が経過して−

銅とベンガラで繁栄した吹屋地区は、産業の衰退に伴い過疎化が急速に進行し流出・減少となりましたが、立派な家屋が連なる町並みは残りました。その町並みの保存に向けて、いち早く伝建選定に取組み、今に至っています。現在の家屋保存の状況は、所有者の世代交代もあり保存・継承が厳しく、空き家の増加、中には放置・崩壊の危機に直面する家屋も見受けられます。その打開策の一つとして、近年若者の移住に期待が寄せられています。

町並み保存とは、連続する家屋の保存であり、家屋保存は人が住んでこそ守られるものであり、空き家対策が大きな課題であります。この課題解決に向けては、最早内輪の話に留めず、幅広く様々な方々の意見を聞きながら、家屋に人が住む方策を探らなくてはなりません。これからの町並み保存の方向性は、空き家の解消と活用を進めることです。それには、家主の協力が不可欠で、地元の頑張りが肝要だと考えます。